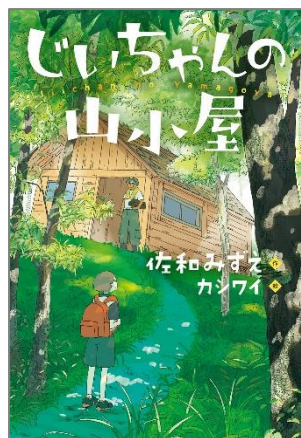


5・6年生から

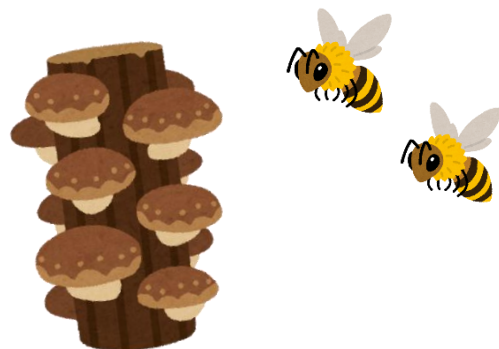
『じいちゃんの山小屋』(913サ)
佐和(さわ) みずえ／作、カシワイ／絵、
小峰書店



父親と大げんかをした小学6年生の航太(こうた)は、四国のじいちゃんの家で暮(く)らすことにしました。でもそこは、電気も、お風呂(ふろ)も、トイレもない山小屋でした。

航太は、不便な山小屋でのじいちゃんとの生活で、様々な出来事を経験(けいけん)し成長していきます。

本当の豊(ゆた)かな暮らしとは何か、考えさせられる一冊(さつ)です。



お知らせ

桶川市電子図書館



(おけがわ し でん し と しょかん)

桶川市電子図書館

図書館りようカードとパスワードを持(も)っていて、
桶川市内(しない)に住(す)んでいる人、
桶川市内の学校(がっこう)に通(かよ)っている人、
桶川市内ではたらいている人が使(つか)えます。

図書館カレンダー

9月						
日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			
お休み	※9月28日(月曜)は、システムメンテナンスのため市内全館お休みです。					
お休み	※毎週月曜日、桶川・川田谷図書館はお休みです。					
おはなし会	桶川(おけがわ)図書館 (TEL 771-0303) 川田谷(かわたや)図書館 (TEL 786-8846) 毎週土曜日 午前10時30分～11時					
	坂田(さかた)図書館 (TEL 783-2150) 毎週土曜日 午前11時～11時30分					
	中央(ちゅうおう)図書館 (TEL 786-6353) 毎週土曜日 午後3時～3時30分					

☆これまでの「もりのくまさん」は、
桶川市図書館のホームページ(図書館メニュー>
児童(じどう)向け図書館だより もりのくまさん)
から見(み)られます。



桶川市図書館

☆今月の「もりのくまさん」は小学生向(む)けです。

No. 421



もりのくまさん

おけがわしとしょかん



2026年9月1日発行 桶川市図書館

☆今月の特集(こんげつのとくしゅう)☆

9月21日は、敬老(けいろう)の日です。

そこで、今月は、
おじいちゃん・おばあちゃんの
本を紹介(しょうかい)します。



いまも おかしも

『ひき石と24丁(ちょう)のとうふ』(619ヒ)
大西 暢夫(おおにし のぶお)／著(ちょ)、
アリス館

90歳(さい)をこえた
ミナさんは、岩手県の
山の中にある
豆腐屋(とうふや)さんです。
大豆(だいず)をひき石で
すりつぶし、煮(に)て、
しばって、固(かた)めて、
24丁の豆腐を作ります。
すべて一人で手作りするミナさんですが、
実(じつ)は目があまり見えません。

「キー ゴロゴロ キー ゴロゴロ」
ひき石の回る音ではじまるミナさんの暮(く)らしを、
写真で見(み)てみましょう。

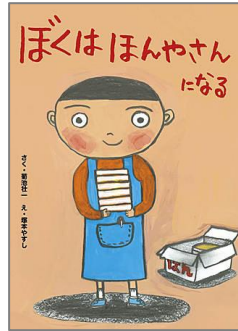


1・2年生(ねんせい)から

『ぼくはほんやさんになる』(Eボ)
菊池 壮一(きくち そういち)／さく、
塚本(つかもと) やすし／え、ニコモ

ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんは、ほんやさんをやっています。おじいちゃんは、戦争(せんそう)で学校(がっこう)にいけないあいだも、本(ほん)を読(よ)んで勉強(べんきょう)して、ほんやをつぎました。そんなおじいちゃんを ぼくはえらいと おもっています。ところがあるひ、ほんやさんをやめるときいて……。

だんだんとへってきている まちのほんやさんをおうえんしたくなる えほんです。



『ベッシーちゃん』(Eベ)
石川(いしかわ) えりこ／作(さく)、アリス館

なおちゃんの
おばあちゃんは カナダで
うまれそだちました。
カナダでのなまえは
ベッシー。8才(さい)のとき、
日本(にほん)の
教育(きょういく)を うける
ため、たったひとりで
カナダから やってきました。

おばあちゃんは カナダでの8年間(ねんかん)があつたから、日本で いっしょうけんめい
いきていくことが できたとかたります。
もっともっとしりたいな、ベッシーちゃんのこと！



3・4年生から

『ごきげんな毎日』(913イ)
いとう みく／作、
佐藤 真紀子(さとう まきこ)／絵、文研出版

ひと月前(ひとつきまえ)にアパートから
一戸建(いっこだ)ての家に
引っ越(ひっこ)してきた
喜一(きいち)と家族(かぞく)。
みんなが ごきげんなこの家に、
ある日(あるひ)とつぜん、おばあちゃんが
やってきた！

おばあちゃんは、自分のことを
名前(な)で呼(よ)んでほしいと言うし、毎日(まいにち)どこかに
でかけるし、なんかヘン。
おばあちゃんは何(なに)をしに きたんだろう？



『おじいちゃんとの最後(さいご)の旅(たび)』
(949ス)
ウルフ・スタルク／作、キティ・クローザー／絵、
菱木 晃子(ひしき あきらこ)／訳(やく)、徳間書店

入院(にゅういん)している
おじいちゃんは、いつも きたない
言葉(ことば)を使(つか)うし、
怒(おこ)りっぽくて面倒(めんどう)
くさい。だからパパは会いに
行(い)きたがらないけど、ぼくは
そんなおじいちゃんが
大好(だいす)き。

ある日(あるひ)、ぼくとおじいちゃんは「病院(びょういん)を
抜(ぬ)けだす」計画(けいaku)を練(ね)りあげた。
「やりたいこと」があるんだって。おじいちゃんの
やりたいことって何(なに)かな？ パパや病院(びょういん)の人(ひと)を
だまして、最後まで うまくいくかなあ？



5・6年生から

『おじいちゃんは水のにおいがした』(664オ)
今森 光彦(いまもり みつひこ)／著(ちよ)、
偕成社

おじいちゃんは琵琶湖(びわこ)のほとりで漁(り)を
しながら暮(く)らしています。

この町(まち)には、人と水(みづ)が出(で)会う“かばた”という
水の新たなはじまりの場所(ばしょ)があります。

「魚(いし)がいる川(が)には、きれいな水(みづ)があるんだ」とおじ
いちゃんは言(い)います。

この本(ほん)では、おじいちゃんの生き方(いきかた)を通して、
豊(ゆた)かな自然(しぜん)の恵(めぐ)みに感謝(かんしゃ)
することの大切(たいせつ)さを学(まな)ぶことができます。

